

科目名 (科目番号)	基礎看護学 援助論 (074132)	教員名 吉田礼子、尾崎道江 山崎智代、田所夕子 ほか	学科等	看護	必修	履修年次	2
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
			オフィスアワー			A210研究室	
授業概要	<p>・看護を実践するための科学的問題解決の方法論としての看護過程を学習する。看護上の問題解決の過程として意図的系統的に判断するステップ(アセスメント・看護診断・看護計画の立案・実施・評価)について、その思考過程を学び、事例に基づきペーパーシミュレーションを行う。</p> <p>・既習の知識と技術を統合し、条件設定された患者を想定し「状態に応じた」看護技術を習得する。</p> <p>関係する垂直軸:看護、健康の状態、情報の組織化、自己研鑽</p>						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1・2	看護過程とは(1) (講義①②)	到達目標:看護実践における問題解決法としての看護過程の概要について理解する。 学習内容:看護過程の定義と位置づけ、看護過程発展の歴史、看護理論との関係、看護過程の構成要素と展開について学習する。				
	3・4	アセスメントのプロセスと 看護診断(講義③④)	到達目標:看護過程のアセスメントについてゴードンの枠組みを用いて理解する。 学習内容:対象の全体像を把握する視点・枠組みとして、ゴードンの機能的健康パターンおよび情報を整理・解釈・総合、仮診断するまでの過程を学習する。				
	5・6	アセスメントプロセスと 看護診断(講義⑤⑥)	到達目標:看護診断の確定までのプロセスについて理解する。 学習内容:情報の解釈・分析、仮診断から関連図を使い情報を統合し看護診断(看護上の問題)の確定までのプロセスを学習する。				
	7・8	アセスメントのプロセスと 看護診断(演習①②)	到達目標:アセスメントツールに沿ってクラスター毎に必要なS・O情報を収集し整理する。 学習内容:ペーパーパーシエント事例を用い、情報の整理について学習する。				
	9・10	アセスメントプロセスと 看護診断(演習③④)	到達目標:アセスメントツールに沿って整理した情報の解釈・分析、問題仮説を推論し、仮の看護診断を導く。 学習内容:事例の情報の解釈・分析、仮の看護診断までのプロセスについて学習する。				
	11・12	アセスメントプロセスと 看護診断(演習⑤⑥)	到達目標:仮の看護診断を踏まえ、関連図を作成する。 学習内容:事例の病態と生活の関連を明確にし、仮の看護診断から関連図作成のプロセスについて学習する。				
	13・14	アセスメントプロセスと 看護診断(演習⑦⑧)	到達目標:看護診断の確定、問題の優先度とその根拠を踏まえ、問題リストを作成する。 学習内容:病態と生活の関連を明確にし、問題を統合、看護診断を確定、優先度を決定するプロセスについて学習する。				
	15・16	発表	到達目標:代表者の発表を通し、アセスメントから仮診断までを理解する。 学習内容:他者の発表、質疑応答により、アセスメントから仮診断までのプロセスを学習する。				
	17	計画立案(講義⑦)	到達目標:期待される結果、具体策の立案の要点を理解する。 学習内容:期待される結果の設定および看護上の問題を解決するための計画立案について学習する。				
	18	経過記録と評価 (講義⑧)	到達目標:SOAPの書き方、評価の仕方を理解する。 学習内容:経過記録の書き方および看護過程の5段階目である評価について学習する。				
	19・20	計画立案(演習①②)	到達目標:期待される結果、具体策の立案とその根拠について理解する。 学習内容:期待される結果の設定、具体策の立案についてグループで討議する。				
	21・22	計画立案(演習③④)	到達目標:具体策を実施するための準備ができる。 学習内容:立案した具体策の実施に向けてグループで準備を行う。				
	23・24	計画実施(演習⑤) 記録・評価(演習⑥)	到達目標:具体策を実施する上での留意点に気づくとともに、期待される結果に基づく評価の仕方を学習する。 学習内容:立案した具体策をもとにグループでロールプレイを行い、それを記録し評価する。				
	25・26	実施記録・評価の発表	到達目標:実施記録の書き方と、期待される結果に基づく評価の仕方を理解する。 学習内容:具体策の実施についての記録と評価のしかたについて学ぶ。				
	まとめ	到達目標:看護過程の構成要素と内容、意義について理解する。 学習内容:看護過程の展開方法について振り返り、学習する。					
27・28	技術演習①②	到達目標:人体モデルで静脈内採血の技術を習得する。 学習内容:静脈内採血のデモンストレーションを見学し、採血技術を学習する。					
29・30	技術演習③④	到達目標:人体モデルで導尿の援助技術を習得する。 学習内容:自力で排泄できない人への導尿の援助技術を学習する。					
成績評価の方法・基準	ペーパーパーシエントでの看護過程展開60%+期末試験40%(それぞれ60%以上に達していること)						
教科書	①ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ②看護診断ハンドブック		①江川隆子 ②カルペニート著、新道幸恵監訳		①ヌーヴェルヒロカワ ②医学書院		
参考図書	必要時紹介する						
教員からのメッセージ	看護に必要な問題解決力の基礎を学びます。臨地実習にダイレクトにつながる科目です。演習は紙上での事例展開を行います。基礎看護学の教員全員がグループ担当として指導にあたりますが、みなさん一人ひとりの主体的な学習姿勢が強く求められます。地道な努力を積み重ね、理解が深まるとともに楽しく自己の成長を実感できる科目です。						